

みちくさ亭



かしら
柏うお〜か〜
あいネットが気になる街の事業所にお邪魔します。

平成 25 年 10 月 15 日柏市藤心にケアラズカフェ&いきぬき処 みちくさ亭がオープンしました。みちくさ亭は、柏市民公益活動登録団体・介護者支援の会が運営しています。今回はお忙しい中、代表の布川さんと、宮村さんにお話を伺いました。



・どんな場所ですか？

ケアラズカフェとは、孤立しがちなケアラーが気軽に立ち寄り、仲間と悩みを分かち合ったり、情報が得られて、くつろげる場所としてオープンさせました。介護にかかわる様々な立場の方に息抜きや相談が出来る場所、交流の場所としてどなたでもご利用いただける居場所です。どなたでも、というのは、介護にかかわる方だけでなく、介護に関心のある方、他人事ではないと感じている方も含めています。

実際に来店される方の 7 割が一般の方で、介護者 1 割、介護者と本人 1 割、デイサービス利用者と職員の方が 1 割です。介護にかかわるすべての方のゆったりくつろげる場所です。

・スタッフはどんなかたですか？

オープン前に、地元の農家さんにお店のコンセプトを話し、野菜を提供していただいています。その野菜を店頭で販売したところ、お客さんがボランティアとして手伝ってくれることになりました。今では約 10 名のボランティアさんが日替わりで手伝ってくれています。

・営業時間・メニューについて教えてください。

営業時間は、火曜・水曜・木曜の 11 時～17 時です。祝日でも営業します。その他の曜日も、予約制で営業することもあります。メニューは週替わりで、手作りランチと手作りデザートを用意しています。フェイスブックでメニューの確認ができるので一度ご覧ください。

最後に一言

毎月第一土曜日 13:30～15:00 に介護者の集いをやってます。介護者同士で語り合いの場ですので、介護を背負い込まずに息抜きに来てください。

感想

取材に行った時のデザートは、あんみつでした。あんみつは、ミカンとバナナとさくらんぼ以外は、すべて手作りとのこと。布川さんの思いが詰まった料理でした。

地域の方々に介護に関する知識や情報を発信する場、そして、だれでも立ち寄れる憩いの場として近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



ボランティアさん募集

みちくさ亭では、料理が好きな方、お話が好きな方、介護に関心のあるかた募集しています。

お気軽に問い合わせください。

住所：柏市藤心 1-29-12

TEL：04-7138-5032

URL：<http://www.facebook.com/michikusatei>

Mail:nunokawa.satomi@sky.plala.or.jp

「じんけん」ぼん

(2014.3/NO.119)

第4回あいネット運営委員会



2月19日に平成25年度 第4回あいネット運営委員会が開催されました。

今回は、「東葛地域の就労状況について」専門援助の立場から「」をテーマとし。松戸公共職業安定所 専門援助部門 統括職業指導官の吉村様からのお話し。

ビックハート、あいネット就労準備支援室より支援状況報告。その後、質疑応答、意見交換がなされました。以下、内容の抜粋です。

ハローワークにおける障害者の方への就労支援

就職を希望する障害者の求職登録を行い、専門の職員、職業相談員が障害の能様や適正、希望職種等に応じ、きめ細やかな職業相談、職業紹介、職場適応指導を実施しています。

障害者手帳をお持ちの方が対象となります。松戸ハローワーク、専門援助部門ではその他にも「外国人雇用サービスコーナー」「新卒応援ハローワーク（新卒3年以内の方）」があります。

現状報告
全体的に見ると、平成25年では精神障害者の方の採用率が上昇しています。

東葛地域では就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所等の新規事業も増えてきています。ハローワークとして、各就労支援事業所との連携を強化していく考えです。

柏市の雇用率は1.48%(国が定めた基準は2%)。障害者の方の受け入れに寛大な企業はありません。受け入れ先の充実も大きな課題です。

外国人の来所状況としては、3分の1が永住者

でその他、留学生や夫のみが永住権を持っている方がいます。



ビックハートからの報告

登録者状況・登録者状況としては、精神疾患をお持ちの方が最多となっています。

相談件数・手段は、順に電話対応・職場訪問・来所対応・家庭訪問・その他となっております。相談内容は、就業と生活相談・生活相談・定着相談・就職相談となっております。

あいネット就労準備支援室から報告

経過報告・事業を平成25年10月より立ち上げ、平成26年現在において、述べ人数、約150件、支援しています。利用のきっかけは、あいネットからの紹介や行政機関やハローワーク等からが多くなっています。

支援段階における利用者数(重複含む)
順に、就労自立支援段階・社会自立支援段階・生活自立支援段階となっています。

今後の支援活動について

①円滑なコミュニケーションを学ぶ機会を設ける為に、コミュニケーション講座等の個別にて実施しています。
②家庭に居場所がない方が多いため、隔週でフリースペースとして、就労準備支援室を開放しています。
③単に求人情報の提供、職業の紹介だけに留まらず、支援対象者のご家族も含めた、生活の構築の為に就労支援及び、支援対象者の一年後、三年後、五年後、を見据えた、キャリアパス

の構築も視野に入れた、就労支援を実施します。

④関係各所の皆様との連携を通して、支援サービスの改善を通して、常に利用者の方にとって、利用しやすい施設の運営を目指します。

利用者の方々が来所される背景は様々です。自力で就職活動が行えない方、コミュニケーションが上手くとれない方、昼夜逆転した生活を送っている方。元々、二トや引きこもりだった方の支援もさせて頂いています。働きたいのに働けない方、日常生活に生きづらさを感じている方に、少しでも安心して希望を持って頂けるようなサポートが出来れば、と考えております。

委員の方からは

「高齢者のご自宅に家事援助に行った際、引きこもりのお子さんに会う事がある。一緒に作業を行う場合がある。何か外と繋がる機会があると良い」

「高齢者担当。何らかの問題がある子どもに対して介入しすぎると、拒否されてしまい、本来の役目である高齢者に接触出来ない場合、立ち入りづらい状態ではある」

「離職を繰り返す若者が多い。定着支援が重要」

「公的機関、福祉施設、障害者雇用が増えているが、さらなる向上が望まれる」等の意見がありました。

柏市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会に参加して



年2回開催される表題の運営委員会の2回目に出席しました。柏市の特色が以下のように報告されました。

柏市の高齢者人口は8万5千人。
虐待発生率：全国や千葉県と比較すると高い発生率になっている。
通報経路：全国・千葉県では介護支援専門員からの相談、通報が最も多いが、柏市では警察からの相談、通報が最も多く次いで介護支援専門員となっている。
虐待類型：共通してもっとも多いのは身体的虐待で、次いで心理的虐待となっている。
主な虐待者：息子による虐待が最も多いが柏市は割合でいうとやや低く、その分夫や娘の割合が高い。
被害者：70～80歳代が中心であるが、柏市は80歳代の割合が約半数を占めている。男女比は共通して男2：女8となっている。
介護保険の申請状況：柏市は介護保険の認定を受けている者が少ない。
世帯構成：子と同居の世帯割合が高い。
対応状況：柏市では分離ありの割合が高い。これは分離の受け入れ側である施設との連携・ネットワーク構築が機能していることが一要因となっていると柏市では分析している。

老人福祉施設連絡協議会では月番で一時保護を受け入れられていること、いきなりの入所なので、感染症の問題や、ベッドを確保しておかなければならないための費用についての課題があるとの報告がありました。また、老障介護といわれるように、介護を要する高齢者と障害者の世帯での介護負担や、障害者からの虐待や障害者への虐待など、高齢者虐待だけでは対応できないケースもあり、地域包括支援センターや介護支援専門員の家族支援や障害者への理解などが必要ではないかとの意見に、福祉活動推進課では、障害福祉課の協力を得て研修会を開催する予定との話がありました。

障害を持つ方も高齢化が進んでいます。高齢者になると障害福祉サービスより介護保険が優先となります。しかし障害を持つ方にとって、介護保険のサービスを受けることには違和感がある方も多いようです。高齢者をひとくくりにするのではなく、個別の支援を検討する余地が広がる必要ではないかと感じます。また、介護支援専門員の方が障害を理解する機会がもっと増える必要があると感じます。

第4回三師会合同勉強会 平成25年度自殺予防対策医療従事者等研修会 1/30 開催

アミユゼ柏で開催された「平成25年度自殺予防対策医療従事者等研修会」に参加しました。以下、お話しの内容です。

救急現場における柏市の精神疾患患者への対応の現状と課題 (柏市消防局救急課より)

・平成24年精神疾患による搬送状況
年齢別出場件数及び搬送人員は、20代、30代が顕著に多くなっています。傷病程度別搬送人員は軽症が一番多く、過換気症候群、アルコール中毒の方が多。
課題としては、緊急性や重症度の高い精神疾患や自損行為の傷病者の場合は、比較的早く医療機関に収容できるが、軽症の場合は収容要請時間が長時間化していること。受け入れ先の選定に長時間かかること。救急車は柏市全域を11台で運用しています。救急需要が多く、救急車が不足する場合があります。報告がありました。



講演
・プライマリケア医が行う自殺予防への関わり (信愛クリニック院長 井出医師)
精神疾患を持つ患者の多くはそれと気づかず、身体愁訴(背景に精神疾患があることが多い)を主訴にプライマリ・ケア医を受診します。
しかしながら、プライマリ・ケア医は精神疾患を診る訓練を受けていないので、精神疾患の患者に上手く対応することができません。患者は良くならないので不満を抱く。医師は良くなることができないのでストレスを抱く。こうした負の連鎖が続いているのが現状です。

PIPはこうした患者と医師に対し、解決策を提示するために作られました。
自殺予防対策を基本として、うつ病を始めとする精神疾患のこと、問診の作法、治療法等、のお話しがありました。
日本の年間自殺者数は急激に増加し、10年連続で3万人を越え高止まりで推移しています。
一方で自殺未遂者数はその十倍の30万人以上と推定されています。

不景気と自殺死亡者数との関係も注目を集めており、昨今の厳しい経済状況の中では、日本に限らず、世界中での自殺死亡者数の増加も懸念されています。こうした自殺の背景には種々のストレスに関連して発症した、うつ病の存在が指摘されています。
自殺者の30%～60%がうつ病に罹患していたとの報告もあり、自殺対策としてうつ病への対応は、日本の極めて高い自殺率を鑑みると急務と言えます。
例えば、具体的に自殺の方法を考えている場合のように、自殺のリスクが高いと判断される方を発見した場合、早期に専門医への紹介を行う等の必要があります。医療、福祉機関等の専門職はもちろん、家族や職場の同僚、郵便局員、新聞配達員、だれでも自殺予防のゲートキーパーに成りうる可能性があります。その人の些細な変化に築くには普段からの人と人との繋がりが大切です。



シンポジウム
「地域で取り組む自殺予防対策について」
井出医師に加え、精神科医師、歯科医師、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等の方達をシンポジストとして意見交換が成されました。

「ここ9年間で、うつ病の方が2倍に増えている。うつ病の方、アルコール依存の方の自殺者数の割合が多い。井出医師が言うように繋がりが大切さと思う」。
「原因不明の内部疾患が多い。精神的なものが背景にあるのではないかと思う。薬局はゲートキーパーの役割が強いと思う」。
「訪問看護事業をやっている。現場で働いていて心を開く場所が少ないのではないかと感じる。自閉から自死へ繋がってしまうケースが多い」。「ケアマネ業をやっている、高齢独特の希死念慮、介護負担疲れなど、精神的に疲れている方が多くいる。また、早く死んでしまいたいと言う高齢者を多く目にする」、等々多くの意見がありました。

感想
今回、国、柏市の自死に至ってしまう状況を聞かせて頂き、改めてその数の多さに驚きました。医療に携わる医師や多職種の方々の意見を聞き、精神科医療の現状を知りました。日々の業務で、家族関係に悩んでいる方、職場でのストレスを抱えている方、金銭面の不安がある方等、悩みや不安、心配ごとを抱えている方を多く目にします。その方と同じ時間を共有するのは、わずかな時間ですが「繋がっている」という想いを持って頂くことで、自殺予防に貢献できたと思えました。

※プライマリケア(英: Primary care)とは、国民のあらゆる健康上の問題、疾病に対し、総合的・継続的、そして全人的に対応する地域の保健医療福祉機能を指す。

お知らせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707 FAX:04-7165-8709)まで

講演(イベント)名	日時	場所	費用	申込 問合せ先他
「国際ユニバーサルアートタウン」 設立に向けて ～障がいのある人を真ん中に、市民芸術文化を通してまちづくり!～ 加藤登紀子さん(設立準備委員長) と語り・歌おう!	2014年 3月27日(木) 19時～21時	市川市 文化会館 ローズルーム	無料	参加申し込み不要 (問い合わせ) NPO法人市川市民文化ネットワーク内 国際ユニバーサルアートタウン設立準備委員会 TEL/FAX:047-711-8813(8814)